

# 祇園祭の中世

室町・戦国期を中心に

河内将芳著

▼A5判・三五二頁／定価四、七二五円(税5%込)

ISBN978-4-7842-1631-4

【二〇一二年六月刊行予定】

室町期の都市京都を文字どおり代表する祭礼であった祇園祭(祇園会)を通して、中世京都を考える。祇園会の見物という行為の検討により、その特質をうきばりにし、さらに神輿渡御の神幸路・御旅所と都市空間との関係、戦国期の祇園祭の再興の意味や、「鬮取」の実態についても解き明かす。

## ○内容目次○

### I 祇園会の見物

- 第一章 室町期祇園会と公武政権―見物をめぐって
- 一、祇園会御成と室町殿の見物 義満期／義持期／義教期／義政期Ⅰ／義政期Ⅱ
  - 二、内裏・仙洞による祇園会见物 義持期／義教期／義政期
- 第二章 祇園会を見物すること―室町期における
- 一、足利尊氏・義詮の祇園会见物 尊氏の祇園会见物／義詮の祇園会见物
  - 二、棧敷と見物 棧敷の実相／棧敷を構えない内裏・仙洞の祇園会见物

外交使節の祇園会见物

### II 神輿渡御・御旅所・駕輿丁

- 第三章 中世の祭礼と都市空間―祇園会神輿渡御と御旅所を素材に
- 一、神輿渡御と御旅所
  - 二、上杉本洛中洛外図屏風にみる神輿渡御と御旅所
  - 三、神幸路と都市空間
  - 四、「祭礼敷地」と都市空間
- 第四章 祇園会神輿駕輿丁と今宮神人―室町・戦国期における
- 一、祇園会神輿駕輿丁 駕輿丁と喧嘩／大宮駕輿丁と訴訟
  - 二、大宮駕輿丁・今宮神人・蛤売 訴訟と蛤売／洛中蛤商売役
  - 三、戦国期の今宮神人―商人としての蛤売から「魚物商売」へ

### III 再興された祇園会

- 第五章 戦国期祇園会の再興と恠異
- 一、「中京火事」と恠異 『後慈眼院殿御記』明応三年八月一日条  
「中京火事」の実相／魔風・炎旱・盗人・放火
  - 二、祇園会再興と恠異 放火人擲取・盗人露頭／「神勅」と祇園会再興
- 第六章 「戦国期の祇園祭」論―豊かなイメージと史実の間隙
- 一、室町・戦国期の祇園会 神輿渡御と山鉾巡行／延暦寺大衆と祇園会
  - 二、天文二年の祇園会 延暦寺大衆と幕府と祇園会／追行された祇園会

### IV 山鉾巡行・風流・鬮取

- 第七章 祇園会山鉾鬮取考―戦国期から近世前期にかけて
- 一、「日次紀事」にみる近世前期の鬮取と山鉾次第  
「七日山鉾」(前祭)の鬮取と山鉾次第  
「十四日山々」(後祭)の鬮取と山鉾次第  
「祇園会山鉾事」にみる鬮取と山鉾次第  
絵画史料にみる山鉾次第
- 第八章 乗牛風流と鶴鉾に関する考察
- 一、乗牛風流 「乗牛者」／「ウシノ、リ」／「牛背」
  - 二、鶴鉾 「大舎人之鶴鉾」／「大舎人之鶴鉾」と乗牛風流
- 付論 南都祇園会に関する二、三の問題
- 一、祭礼の実相 祇園社の勧請／祭礼の形態／風流としての山・舞車・笠鉾
  - 二、祭礼をめぐる諸関係 舞車相論と「探」取／「探取」をめぐる混乱  
「両寺見物」／「祇園会出銭」

かわうち・まさよし：1963年大阪府生、1987年京都府立大学文学部卒業、1999年京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了、京都大学博士(人間・環境学)、現在、奈良

大学文学部教授

主要著書……『中世京都の民衆と社会』(思文閣出版、2000年)、『中世京都の都市と宗教』(思文閣出版、2006年)、『祇園祭と戦国京都』(角川叢書、2007年)、『秀吉の大仏造立』(法蔵館、2008年)、『信長が見た戦国京都』(洋泉社歴史新書、2010年)

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723  
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行:思文閣出版 (京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	祇園祭の中世 本体4,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1631-4
お名前		tel	
		e-mail	
ご住所	〒		
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)		書店番線印

**風俗絵画の文化学Ⅱ 虚実をうつす機知**

松本郁代・出光佐千子・彬子女王編

美術史・歴史学・文学・文化人類学等を専門とする研究者が、それぞれの専門性を生かした風俗絵画分析を進め、粘り強く議論を繰り返して生まれた学際的文化研究。絵画の制作に関わった人々の複雑に絡み合う視線の交錯を文化的に考察し、そこにあらわれた「機知」—虚実を往来する機微や感性の「かたち」—を明らかにしていく15篇。

▶A5判 / 450頁 / 定価 7,350円 ISBN978-4-7842-1615-4

**\*風俗絵画の文化学 都市をうつすメディア**

松本郁代・出光佐千子編

中世から近世における風俗絵画のメディア性に着目し、そこに描かれなくなったものの持つ意味や享受者の視点、都の社会における聖と俗の姿、風俗絵画に表された芝居空間や行事のかたちを年代とともにどのように姿を変えたのか、「風俗画」が近代に至りいかなる解釈を得て「風俗画」となり得たのか、など様々な視点からアプローチする。

▶A5判 / 368頁 / 定価 6,825円 ISBN978-4-7842-1469-3

**\*京都の都市共同体と権力**

仁木宏著

思文閣史学叢書

中世京都の都市構造モデルを前提に、その変容のなかから町(ちょう)の成立を読み解く。自力救済社会における武家と都市民の対峙が、やがて公儀を創出し、都市共同体を確立させることを明らかにする。中世後期における自治、共同体、権力の葛藤を正面から見すえ、都市の本質を具体的に、理論的に分析した一書。

▶A5判 / 332頁 / 定価 6,615円 ISBN978-4-7842-1518-8

**近世京都の都市と民衆**

鎌田道隆著

思文閣史学叢書

著者が京都市史編纂所時代におこなった京都市内全域の旧家・会所・小社寺などの民間史料調査をもとに、戦国から幕末維新までの京都都市論を展開。【内容】戦国期における市民的自治について／初期幕政における京都と江戸／慶長・元和期における政治と民衆／町の成立と町規制／京都における十人組・五人組の再検討 など

▶A5判 / 390頁 / 定価 8,190円 ISBN4-7842-1034-2

**\*中世後期の寺社と経済**

鍛代敏雄著

思文閣史学叢書

中世後期から近世への移行期は日本史上の社会的転換期とされ、中世寺社勢力が衰退し戦国期宗教が台頭する時期でもあった。この時期に政治的・経済的に大きな力を持った石清水八幡宮と本願寺教団を主な対象とし、両者の比較も行いつつ、従来、寺領・社領を中心に論じられてきた寺社と経済をめぐる問題に商業史・交通史・都市史の視角から迫り、中世後期の社会経済の変革の実態を具体的に描き出す。

▶A5判 / 404頁 / 定価 8,400円 ISBN4-7842-1020-2

**\*中世都市共同体の研究**

小西瑞恵著

思文閣史学叢書

1970年代以降、自由都市論から封建的都市論への転換にみられた新しい研究動向を受けて、陸路水路の要衝大山崎を分析し国家権力と密接な関係をもつ商業的共同体という観点から論じた大山崎研究をはじめ、堺都市論、自治都市としての成立過程と内部構造について新たな都市像を示した大湊研究等、都市共同体の全体構造や多様な都市住民の実態に迫る。

▶A5判 / 340頁 / 定価 6,720円 ISBN4-7842-1026-1

**室町・戦国期研究を読みなおす**

中世後期研究会編

踏まえる、拓く—若手研究者が提示する研究の過去・現在・未来

I 政治史を読みなおす [1 公武関係を読みなおす] [2 都鄙関係を読みなおす] / II 社会史を読みなおす / III 経済史を読みなおす / IV 宗教史を読みなおす

▶A5判 / 408頁 / 定価 4,830円 ISBN978-4-7842-1371-9

**\*「洛中洛外」の社会史**

川嶋将生著

鴨川の景観変遷、都市としての京都を生みだした町人の信仰・遊楽や会所への関わり、被差別民の動向、京郊に展開した村落の諸相、さらに落書きの系譜にみられる社会や政治に対する人々の認識など、「洛中洛外」の時代に取り組んだ成果。

▶A5判 / 348頁 / 定価 6,825円 ISBN4-7842-1003-2

**中世京都文化の周縁**

川嶋将生著

思文閣史学叢書

「近世都市」へと変貌を遂げていく中世京都の姿を洛中洛外図や祇園会館の記録を通して、また声聞師・庭者など室町文化を支えた都市周縁の非人たちの動向と合わせて論じ、上層町衆と新興町人との世代交代という中世から近世への明らかな時代転換が見られる寛永文化に目を注ぐ。南北朝から江戸初頭にかけて「都市」京都の全体像を捉えた好著。

▶A5判 / 430頁 / 定価 8,190円 ISBN4-7842-0717-1

**京都文化の伝播と地域社会**

源城政好著

思文閣史学叢書

京都とその近郊の中世文化史に取り組んできた著者が、これまでの成果をまとめた一書。在地(荘園)をめぐる動向、公武の文芸交流と伝播、さらには河原者・声聞師の被差別民衆の諸相と室町・戦国期の人物論を収録。【内容】I 地域社会の躍動 / II 公武の文芸交流 / III 被差別民衆の諸相 / IV 乱世を生きた人々 付録：三手文庫書籍目録(翻刻)

▶A5判 / 400頁 / 定価 8,190円 ISBN4-7842-1325-2

**散所・声聞師・舞々の研究**

世界人権問題研究センター編

部落史・身分制・芸能史研究などによって散所問題は様々な視点から取り上げられてきた。本書では、散所の人々が携わった芸能あるいは陰陽道などとの関わりを含めて文献・絵画・地図の綿密な分析を試み、洛中・山城・近江地域に所在した地域散所研究の到達点を提示。未解明の課題の究明と、新しい研究成果を散所研究として統合することを旨として、同センターでとりこまれた共同研究の成果。

▶A5判 / 590頁 / 定価 8,610円 ISBN4-7842-1219-1

**京都中世都市史研究**

高橋康夫著

思文閣史学叢書

中世京都の都市空間形成過程における種々の問題を、辻子の発生と展開、平安京北辺・後小松院仙洞御所跡敷地・土御門四丁町等の再開発、あるいは六町の成立と構造などの検討を通してさぐり、今日の歴史的都市の保全修景計画をも射程に入れて中世都市像を追究した、気鋭の建築史家ならではの好著。巻末に人名・事項索引を付す。

▶A5判 / 540頁 / 定価 9,240円 ISBN4-7842-0318-4

**中世京都の空間構造と礼節体系**

桃崎有一郎著

貴人と牛車ですれ違う場合の正しい作法は？ 参内するときはどこで牛車を降りればよいのか？ 中世の京都で実践された礼節体系の考察を通じて、中世京都の空間構造を明らかにし、室町殿権力の形成・展開過程をも論ずる。

▶A5判 / 584頁 / 定価 7,560円 ISBN978-4-7842-1502-7

**中世前期女性院宮の研究**

山田彩起子著

院政・鎌倉期における女性院宮(女院・后)の多様な存在形態を様々な視点から分析。第一部では、国母の存在形態の多様性と王家における役割・位置付けを検証し、第二部では、撰関家出身の女性院宮の撰関家における独自の役割の大きさを論証する。

▶A5判 / 310頁 / 定価 5,880円 ISBN978-4-7842-1496-9

**中世都市「府中」の展開**

小川信著

思文閣史学叢書

中世以来、古代国府の後身とも言うべき国々の中心となる領域は国府と呼ばれるほかしばしば府中と呼ばれる。様々な分野から研究が進んでいる古代国府と戦国以降の城下町に比べ、両者の中間の時代にある中世府中は意外と見逃されていた。詳細な個別研究を集大成し、豊富な図版とともに中世都市としての諸国府中の全体像を明らかにする。

▶A5判 / 576頁 / 定価 11,550円 ISBN4-7842-1058-X

**\*中世寺院社会の研究**

下坂守著

思文閣史学叢書

中世社会における影響力の大きさにもかかわらず、その活動を総体として把握しようとする試みがほとんど行われてこなかった比叡山延暦寺を主たる対象とする。惣寺—僧侶たちによる合議—を基礎単位とした中世寺院の広がりを寺院社会として捉え、その歴史的な意味を考察。惣寺についてはもとより、惣寺を基盤として形成されていた寺院社会、ひいては中世社会の本質を探る、著者初めての論文集。

▶A5判 / 598頁 / 定価 10,290円 ISBN4-7842-1091-1

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。